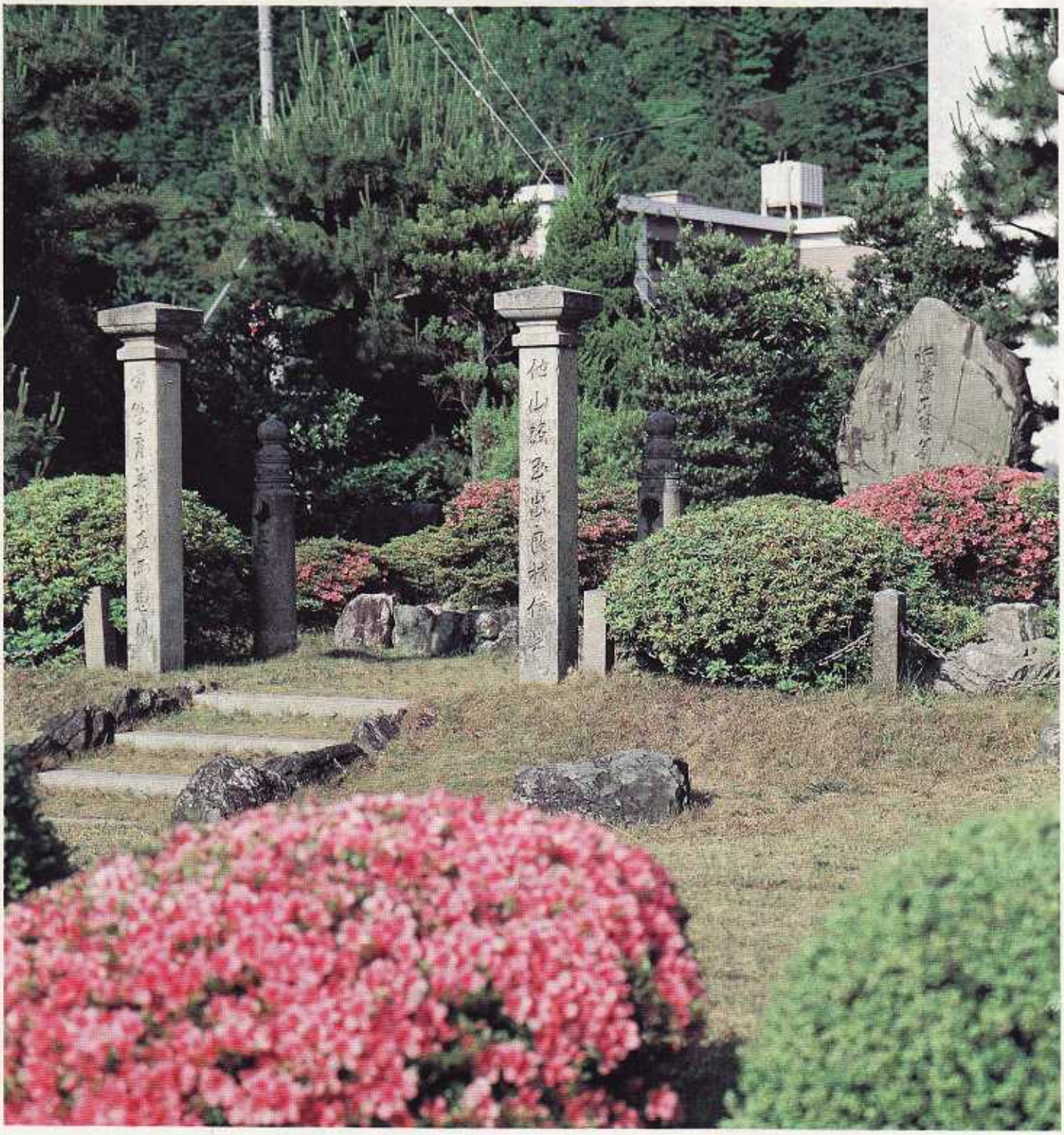
同窓会報

鳥羽商船同窓会
三重県鳥羽市池上町1番1号
郵便番号　517
TEL　代表 鳥羽(0599)25-3137
FAX　鳥羽(0599)25-6941
振替番号　名古屋5－846

平成2年度総会報告



（なつかしい近藤先生記念碑を花の季節に撮影しました。）

本部報告

平成二年度総会

平成二年度本部総会は、東京晴海の「ホテル・マリナース・コート東京」二階「春日」の間で開催され、多数の会員の出席を仰ぎました。

式次第

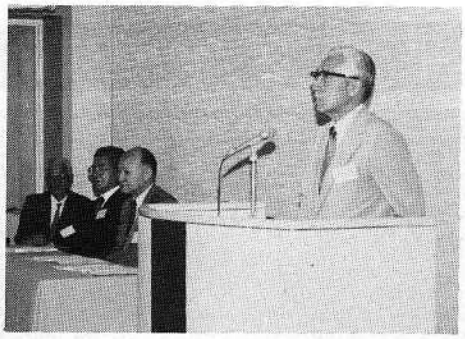
一、会長挨拶
二、学校長挨拶
三、平成元年度会務報告
四、平成元年度会計報告
五、会計監査報告
六、役員の改選
七、平成二年度事業計画
八、その他

会長挨拶

和田春生

本日は暑い最中にもかかわらず多数の会員が総会にご出席下さいまして有難うございました。

また母校からも手塚学校長、野明事務部長がご臨席賜りまして厚し御礼申し上げます。



会長挨拶

この機会に皆様方に、現在の母校の置かれている立場について、世の中の流れの中でお話申し上げたいと存じます。

同窓会としてどのように対応しなければならないかという点について一般状況をふまえ乍らお話申し上げたいと思います。

只今商船高専が直面している問題につきましては、昨年の総会においてもお話ししたとおりであります。そこで本日は新しい問題について考えて見たいと思います。

すでにご承知のとおり、電子機械工学科及び制御情報工学科という工業系の二学科に学科改組が進みまして、従来の商船教育という縦割りの教育機関ではなくなっております。

工業高専、商船高専、電波高専と高専制度が定着して参りまして、各産業界におきましても、技術者の中核としての評価も高まってきました。

そして一般的にも教育レベルが高まって参りました関係で、従来の技術者を養成するという高専の目的だけでは社会に対応できないようになりつつあります。

文部省の方針も高専教育における研究という面でのウエイトがかなり重くなっております。

母校について考えますと、教育という面では抜群の成果をあげておりまして、商船教育としては確立しているといっても過言ではありません。卒業生が海運界以外の面に就職する場合でも高い評価を受けているのは事実であります。

船を動かすのには学問研究や博士はいらないというこれは決して間違った考えではありませんが一つの気風がありました。

母校の場合、母校出身の教官で博士号を受位しているのは落合教授一人でありまして、非常に厳しい状況の中で大変な努力の結果現在のポストを得られているわけであります。

現在母校の場合、博士号の受位者は手塚校長を含めて四名でありまして、弓削は五名、大島は四名、富山が二名、広島が一名となっております。工業高専の場合はかなり違っておりまして、鈴鹿工業高専は博士号受位者が二十二名となっております。

教育という面では従来は問題はなかったとしても、このように教官の研究レベルでの評価が表面に出て参りますと、他人事ではなくなっておりまして、すでに二十六名の博士号受位者がある工業高専が現れておりまして、教官の半数以上がそう状況にある点も注目されています。

商船高専の場合には博士号受位者は一ケタではないかと、外部から見る目、すなわち評価の尺度になるということは残念なことではありますが避けうれない事実であります。

学生の質を高め、良い後輩が社会で活躍してもらうには、商船高専の教官の研究レベルを高めて頂くことが必要かと思われます。

今やそういう転換期にきているのであります。一方産学共同という考え方が一般的となりまして、かつては社会思想的な面から企業は悪だという観点から、企業との共同研究という考え方は採り入れられない状況に在りました。

しかし今日のように我国が経済的に発展し、また科学的にも企業と一体となった技術革新が避けて通れない状況となっておりまして、産学共同という考え方が大学ではかなり進展しております。

高専におきましても、当然今後必要となり、企業との共同研究、受託研究というような研究体制の確立が奨励されるようになって参りました。文部省自体が、大学・高専における産学共同の研究を進めようという方針が打ち出しております。

母校におきましても、昨年すでに企業との共同研究及び受託研究についての学内規則は整備されておりますが実積がありません。

ところが工業高専の場合はすでに十数校がこうした研究体制で研究活動に入っております。

そこでこの問題と同窓会がどのような関係になるかということになりますが、工業高専の場合は、卒業生が地元企業に就職する例も多いので、地元との結びつきが強く、この点で研究のスポンサーが得られやすいといえます。

同窓会そのものも地元の有力企業との対応からそうした素地を作りやすい状況にあります。

商船高専の場合は、従来は地元の企業に就職するという例は非常にまれであり、同窓会そのものの活動もお互いの連携も仲間意識という面が強かったわけでありますので、母校の教官の研究活動の支援をするという点では限界があったわけであります。

しかし今後はこれでは時代に合わなくなって参ります。工業高専に比較しまして、立地条件も不利でありますから、同窓会が母校の

教官の研究活動の支援という面での拡充をはかる必要が出て参りました。

従来の潮気のある仲間意識から一歩前進して、世間から遅れをとらないようにしたいと思います。

教育効果という点では高い評価を受けて私共の母校でありますから、研究、開発という面でも翼を広げて行きまして、「鳥羽商船高専ここにあり」とすべての学科の卒業生ならびに父兄とも一丸となって母校の発展に一層の努力をはかりたいと考えております。

同窓会は微力ではありますが、扉を開いて母校との協力をさらに緊密な体制を整えたいと思います。

海運界では最近は求人難という状況でありまして、卒業生の海上への就職もかなり好転しております。

商船学科の入学志望者の倍率も他学科と同じ二・五倍程度と明るい兆しが見えております。

我国における高等専門教育の分野とくに母校においては触れられていない、教官の研究活動の支援という面におきまして、今後皆様方の一層のご理解を得たいと存じます。

終りに当りまして、皆様方のいままでの同窓会に対するご支援に感謝いたしますと共に、今回東京で開催されました総会に、かつてない多数の会員がご出席賜りましたことに対しまして厚くお礼申し上げまして私の挨拶といたします。

有難うございました。（一同拍手）

☆テープより起稿しました。

学校長挨拶

手塚俊一

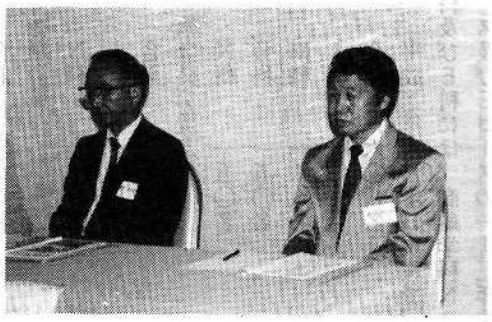
昨年の十二月一日付で校長となりました手塚でございます。東京商船大学で三十三年間勤めて参りまして、学生部長として在任中に皆様方の母校の校長を拝命しました。

非常に歴史のある学校に着任しまして目下勉強中であります。只今は和田会長さんから大変慈味あふれる良いお話を拝聴しまして、学校としましても今後より一層努力しなければならないと考えております。

皆様方には日ごろからご指導、ご協力を賜っておりますことをこの席を借りまして厚くお礼申し上げます。

学校の様子につきましてお話し申し上げたいと思います。現在までに第一次、第二次の学科改組がありまして、電子機械工学科四十名、制御情報工学科四十名、商船学科がNコース二十名、Eコース二十名計四十名の三学科体制となっておりまして、現在三年次まで進んでおります。

従いまして、比率でいますと、商船学科は工業系の学科の半分すなわち一学年定員の三分の一ということになります。



来賓　手塚校長（左）野明事務部長（右）

昔から見ますと商船学科が大幅に少なくなったことになります。

電子機械工学科は今年はじめて卒業生を出しまして、就職先としては、電子・電気という名称がついているところから、ほとんどが一部上場の企業となっております。

商船系としましては、海運界の復調、客船ブームさらには造船界の活況等も反映しまして、入学志願者も増加しております。現在入願志願者の倍率は、商船学科が二・五倍でありまして、これは電子機械工学科及び制御情報工学科の二・五倍と同じですなわち学校全体の志願者倍率が二・五倍となっておりまして、バランスがとれています。

これは全国の高専の入学志願者倍率が二・五倍でありますところから、良い線を行っているように思われます。

マスコミは海運界の不況については大きく報導しますが、好況については取上げてくれないこともありまして、実際には商船学科の志願者がもっと増加しても良いように思われます。

マスコミの影響によりやや暗い印象をもたれてきたことが関係しているようにも思われます。

先ほど和田会長もお話しになりましたように、商船高専における教育そのものは抜群であるという評価を受けておりますので、商船系の学生が陸上に就職しましても非常に良い評価を得ております。

従って海運界がのんびりしておりますと、卒業生を陸上企業に取られてしまうということも出て参ります。この点について運輸省の船員部長も認識されておりまして、商船教育の評価が高いことを示されておられますが、まさにそのような状態になっております。

現在の三生生が卒業するときには、商船系はNコース二十名、Eコース二十名と現在の半分になるわけですから、海運界としても求人できない場合もあることも予想されます。

現在かかえております問題としましては、教育中心主義から研究活動にも力を注ぐ必要に迫まられていることであります。工業高専がこの点ですでに力をつけております点を参考にする必要があります。

もう一つの問題としては、商船学科の練習船があげられます。現在の鳥羽丸はすでに建造後二十年を経過しておりますので、代船建造を計画しなければなりませんが、商船学校の定員が三分の一になったことから、商船高専が各校共代船建造を計画することは当然無理であるという空気が文部省でも強かったわけであります。

せいぜい二校程度の代船建造しか認められないような環境でしたが、日米構造協議がらみで、少し良い風が吹きはじめたように思われますので、これに大いに期待しております。

一時、商船学科を工業系にさらに改組しては（矢島前校長時代）という意見も文部省に強かったといわれますが、現在では商船高専で二〇〇名、商船大学で二〇〇名の船舶運技術者の養成がぜひ必要であるという点で、運輸省と文部省が確認を致しましたので、ひとまず現状維持ということになっております。

商船高専では単位必須科目が非常に多くて、商船系の場合、五十二単位が必要となります。さらに最近では限定当直のために必要な単位数は二十九単位となっておりまして、非常に過密な状況であります。さらに商船高専の一単位は三十時間であるのに対し商船大学では一単位が十五時間となっていますので、朝から晩まで必須専門教科を勉強するという超過密状況にあります。この点については、

今後関係者の間で充分な討議が必要かと存じます。

次に商船系の就業年限があげられます。現在四年半の席上課程、一年の実習課程計五年半の就業年限となっております。

陸上に就職する場合は、年次途中就職するわけでありますので、実際には翌年の採用という形になる場合もあるわけです。そこで五年で卒業とし、半年の実習課程を経て海運界に就職するという形をとったらということで、商船高専全体で話合っております。

工業高専を含めて問題となっておりますことは名称であります。各種学校でありますまぎらわしいことから専門学校とまぎらわしいことから専科大学という名称にしたいという提案がなされていたわけでありますが、短期大学の激しい反対がありましてむずかしい状況にあります。

次に卒業生に何か称号を与えたらという意見があります。最近のように高専に外国からの留学生が多くなりますと、一層この点が問題になって参ります。

さらに専攻科を二年設けて、就業年限を伸ばす方法と、他の学科の専攻科の単位を習得することによって、企業等においては大学卒業と同等と認めてもらうという考え方がありまして、この面ではすでに二、三の工業高専で実施の方向にあります。これをさらに進めまして大学昇格という方向付けを必要としております。

こうなりますと教官の資格が、大学の教官と同程度であるかという点が問題になって参ります。

教官の研究レベルが上りませんと、こうした制度は高専によっては可能なところと不可能なところに区分されて、高専間に格差が出てくることになります。

そこで和田会長がいわれましたように、本校の場合は丁度曲り角にきているように思われますので、教育としては天下一品でありますので、研究面でも天下一品の学校となりますよう、いろいろとご指導賜りたいと存じます。

もう一つは評価という面があります。大学の場合は教授会があらゆる最終的な決定権をもっておりますのでむずかしい面もありますが、高専の場合は、研究面と教育面で実績が非常に高い工業高専がありますので、案外評価の面でするといってしまうこともあり得るわけです。

従ってそうした高専の評価という面で間に合うよう、教育と同時に、研究実績を深める必要があります。本校でも、将来問題検討委員会という委員会を発足させまして、学科の増設を含めてこうした問題について討議しているところであります。なお学内の環境面についても検討を重ねております。

今後共ご指導を賜りまして本校の発展にご協力下さいますようお願い申し上げます。また本日は盛大な総会にお招き下さいまして有難うございました。（一同拍手）

☆テープより起稿しました。

平成元年度 会務報告

落合副会長

一、会員の移動

(1)新入会員・正会員

N科	二十五名
E科	四十名
M科	三十七名
合計	一〇二名

(2)物故会員・正会員

N科	十七名
E科	八名
合計	二十五名

二、会員数

正会員

N科	一三七七名
E科	一六七四名
M科	三十七名
合計	三〇八八名

特別会員

N科	八名
E科	四名
合計	十二名

準会員(在学生)

N科	一五〇名
E科	一五〇名
M科	一八八名
I科	一二〇名
合計	六〇八名

（平成二年四月十日現在で、N科及びE科には、商船学科Nコース及びEコースの一ー三年生の学生を含む）

三、特別会員の加入申請

杉谷　誠（S－39－Nに相当）

昭和三十五年に中退し、現在栗林商船㈱の一等航海士として勤務中で伊勢市在住です。

四、平成元年度事業

(1)総会　一回

平成元年六月十一日

鳥羽商船高等専門学校で開催しました。

(2)理事会　一回

平成元年六月十一日

総会に先立って、総会提出議案、母校の現状・将来問題、今後の同窓会活動等について審議しました。

(3)会報の発行　二回

平成二年九月一日、第一号を総会特集号として発行し、本会の活動状況を報告しました。なお、消息不明の会員について調査の協力依頼をしました。

平成元年十二月二十五日、第二号を発行し、母校を取り巻く社会環境、矢島前校長の学校葬、新卒者の就職状況等について報告しました。

(4)対外活動

(イ)全日本船舶職員協会に対する協力として、新会員の募集を行いました。

(ロ)全国商船高等専門学校カッターレースを支援しました。

(ハ)日本外洋帆走協会主催のパールレースを支援しました。

(ニ)母校が主管した全国高等専門学校体育大会を支援しました。

(ホ)卒業祝賀パーティを共催しました。

(ヘ)矢島前校長の学校葬に際して協力しました。

(ト)海学祭・攻玉展、学生会支援しました。

(5)会員の再就職支援

本部独自及び支部さらには会員の協力を仰ぎ会員の再就職を積極的に支援し、かなりの効果をあげました。（一同拍手）

受付風景

平成元年度　会　計　報　告

落合副会長

収支計算書（平成元年4月1日～平成2年3月31日）

1．収　入

科　目	予算額	金　額	差　額
入会金（100名分）	100,000	102,000	2,000
会費（新入会員2年分）	400,000	408,000	8,000
会費（一般及び終身会員分）	3,150,000	4,153,246	1,003,246
利子（第三銀行普通預金分）	2,000	1,767	△ 233
会員名簿売上代金（62年版）	100,000	107,600	7,600
ネクタイピン売上代金	0	41,000	41,000
前期繰越差額	2,279,110	2,279,110	
収入合計	6,031,110	7,092,723	1,061,613

2．支　出

科　目	予算額	金　額	差　額
負担金卒業祝賀会	250,000	340,000	△ 90,000
全船協協賛金			
学生会攻玉展他			
本部総会費用	500,000	577,842	△ 77,842
支部通信費補助	170,000	232,200	△ 62,200
会報印刷費・送料	1,250,000	1,139,789	110,211
謝金	80,000	80,000	00
慶弔費	80,000	70,840	9,160
役員旅費	600,000	436,310	163,690
通信費（電話及び郵便）	150,000	161,540	△ 11,540
事務用品・消耗品	100,000	94,384	5,616
会務運営費用	600,000	600,000	0
会議費	30,000	0	30,000
会員名簿送料	10,000	0	10,000
ネクタイピン代金	0	170,000	△ 170,000
予備費（郵便振替払込み料金）	52,000	50,540	1,460
支出合計	3,872,000	3,953,445	△ 81,445
次年度繰越収支差額	2,159,110	3,139,278	980,168

基金の部決算（平成２年３月31日）

摘　要	収　入	支　出	残　高
			16,084,398
利　子	346,802		
計			16,431,200

財産目録（平成２年３月31日）

項　目	金　高	左の内訳	金　高
繰越残	3,139,278	貸付信託(安田信託銀行)	4,850,000
基　金	16,431,200	金銭信託(〃)	825,292
		定期預金(第三銀行)	6,204,276
		普通預金(〃)	614,911
		定額預金(郵便局)	5,850,000
		普通預金(〃)	865,000
		郵便振替残高	145,754
		ネクタイピン（51個)	51,000
		現　金	164,245
計	19,570,478		19,570,478

会計監査報告

平成元年度における会費その他金銭受け入れ原簿、収支計算書、基金計算書、財産目録等について、原簿、証券、預金通帳、郵便振替等と照合して監査した結果、いずれも正確かつ適性であったことを認めます。

平成２月７月14日

会計監査　尾崎幸平

南　秋雄

五、役員の改選

本年は役員の改選時機に当ります。左記の方々が役員に選任されました。

常任顧問　○印新任

S－2－E　西島　好夫

顧問

T－4－N　江崎　広治
○T－11－N　下川　満
S－2－N　岡崎　武義
S－7－N　硲口　輝治
S－7－N　関口　展生
S－9－N　浦田　楠雄
S－11－N　市江　義治
○S－16－N　山崎　修
○S－17－N　末崎　弘
○T－14－E　中頭　武
S－4－E　南　兵二
S－8－E　大鳥居健治
S－8－E　高山　逸治
S－10－E　駒田　秀男
○S－14－E　佐波　義三

相談役

S－3－E　堤　好造

会長

S－11－N　和田　春生

副会長

S－16－N　佐藤　静雄
S－17－N　西川　慶堂
S－18－N　小原　博
S－22－N　落合　弘明
○S－18－E　青木佐加男
○S－19－E　村井　憲次
○S－19／12－E　上村　賢治

本部理事

S－17－N　西川　慶堂
S－18－N　中村　浅吉
S－22－N　落合　弘明
S－26－N　松本　暢生
S－39－N　中村　武史
○S－42－N　金田　護
S－19－E　上野　和泉
S－19－E　松本　幹
S－12／19－E　谷水　長生
S－27－E　斎藤　隆
S－30－E　古川　昭一
S－36－E　須永　博
○S－43－E　世宮　利郎
S－44－E　江崎　隆夫

函館支部長

S－19／12－E　梶田　文弥

京浜支部長

S－27－E　千々波天信

理事

S－16－N　佐藤　静雄
○S－19／12－N　根本　明
S－32－N　辻　裕
○S－18－E　青木佐加男
○S－18－E　秋沢土佐男
S－23－E　片岡　久男
○S－35－E　菱田　司
S－36－E　石川　仂
S－52－E　星野　芳昭

静岡支部長

S－21－N　土屋　和男

理事

S－52－E　篠田　政広
S－53－E　松山　清二

名古屋支部長

○S－22－N　山本　茂

理事

S－22－N　加藤　喜作
○S－32－N　大沢　則義
S－43－N　小林　正司
○S－48－N　菅沼　延之
S－19－E　村井　憲次
S－28－E　中村　研一
S－30－E　春口　正一
S－52－E　加塚　伸吾

四日市支部長

S－18－E　北岡　万二

理事

S－22－N　沖田　彬
S－33－N　片山　勝則
S－35－N　中西　新治
S－37－N　石垣　三郎
S－19／12－E　上村　賢治
○S－43－E　鈴木　敏行

大阪支部長

S－21－N　島田　昭三

理事

S－18－N　小原　博
S－21－N　古妻　秀夫
S－37－N　野尻　進
S－27－E　金沢　恒男
S－34－E　奥野　明

神戸支部長

S－22－E　大塩　重夫

理事

S－21－N　長谷川好道
○S－27－N　梅村　伸雄
S－27－E　飯山　嘉昭
S－33－E　西村　潔
○S－36－E　飛田喜八郎

関門支部長

S－10－N　和田　道夫

伊勢志摩支部長

S－19－E　上野　和泉

理事

本部理事が兼任

会計監査

S－16－E　尾崎　幸平
S－17－E　南　秋雄

六、平成二年度事業計画

(1)総会　一回

平成二年七月二十二日ホテルマリナーズコート東京で開催しました。

(2)理事会　一回

平成二年七月二十二日、総会に先立って、総会提出議案、母校の現状・将来問題、今後の同窓会活動等について審議しました。

(3)会報の発行　二回

平成二年九月二十日、第一号を総会特集号として発行し、本会の活動状況、母校の現状、新校長の抱負等を報告します。なお、消息不明の会員について調査の協力依頼を行います。平成二年十二月十五日、第二号を発行し、母校を取り巻く状況、新卒者の就職状況等について報告する予定です。

(4)対外活動

(イ)全日本船舶職員協会に対する協力として、新会員の加入を行います。

(ロ)全国商船高等専門学校カッターレースを支援しました。

(ハ)日本外洋帆走協会主催のパールレースを支援しました。

(ニ)卒業祝賀パーティを共催します。

(ホ)海学祭・攻玉展等、母校および学生会を支援します。

(5)会員の再就職支援

本部独自及び支部さらには会員の協力を仰ぎ会員の再就職を積極的に支援し、会員の地位の向上をはかります。

(6)会員名簿の発行

平成二年十一月一日を目標として会員名簿発行を計画している。前回発行（昭和六十二年版）は在庫なしの状態であります。

議事進行状況

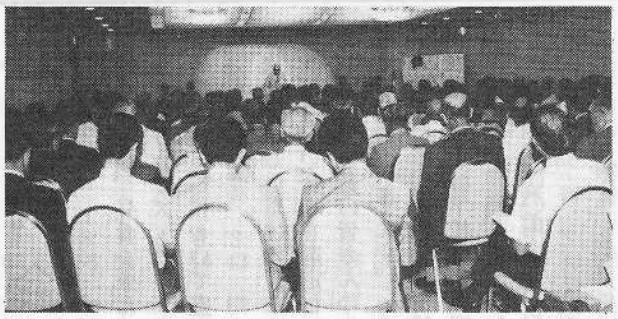
平成２年度予算案

１．収　入

科　目	予　算　額	平成元年との差異
入　会　金（100名分）	１００,０００	0
会　費（新入会員２年分）	４００,０００	0
会　費（一般及び終身会員分）	３,２００,０００	５０,０００
利　子（第三銀行普通預金分）		
前期繰越差額	３,１３９,２７８	
収入合計	６,８３９,２７８	８０８,１６８

２．支　出

科　目	予　算　額	平成元年との差異
負担金 卒業祝賀会	３５０,０００	１００,０００
全船協協賛金		
学生会攻玉展他		
本部総会費用	４５０,０００	△５０,０００
支部通信費補助	２００,０００	３０,０００
会報印刷費・送料	１,２５０,０００	００
謝金	８０,０００	００
慶弔費	８０,０００	００
役員旅費	６００,０００	0
通信費（電話及び郵便）	１５０,０００	0
会務運営費用	６００,０００	0
事務用品・消耗品	１００,０００	0
会議費	３０,０００	0
予備費（郵便振替払込み料金）	５２,０００	0
支出合計	３,９４２,０００	８０,０００
次年度繰越収支差額	２,８９７,２７８	



つめかけた会員一同

理事会

本部総会に先立って、ホテル「マリナーズ・コート東京」の小会議室「橘」において、平成二年度の本部理事会が開催され、総会提出議題及び役員改選、会員名簿の発行等について審議されました。

席上和田会長から、最近の海運界の状況、母校を取りまく環境、さらに手塚新校長から同窓会に対する要望が説明されました。

母校教官の研究活動に対する支援という新しい提案が母校側から持ち出された点が注目されます。

商船高専が従来の船員教育機関から一歩進んだ学校すなわち工業高専と同等の工業系の学科を持つ、ようになりますと、教官の任用等についても文部省ではかなり厳しいものを持ってくるようになりました。

例えば鈴鹿工業工専の場合は、博士の学位を持っ教官が十二名もおられるというように、工業高専における教官の研究が一段と進んでおり、商船商専における状況とは掛け離れたものがあります。

工業商専では、地元企業との共同研究も盛んに推進されており、同窓会組織をあげても学校側のバックアップを始めております。

商船高専においても、同窓出身の教官ばかりでなくすべての教官に対する研究協力という姿勢が必要になったわけであります。

また商船高専においては、学校の制度そのものをさらに一段内容を向上するという高等専門学校共通の理念の上に立って、進むべく方向付けをする必要に迫られています。

商船高専の場合は、工業高専のように地元に直結した企業等がありませんので、むづかしい面もありますが、今後は同窓会も母校に対して積極的に支援する体制を固めるよう和田会長から強い要望がありました。

理事会の開催回数について検討されましたが、役員旅費の関係から、従来のように二回開催することは困難であることが了承されました。

役員旅費との兼ね合いから、理事の定員についての検討も将来問題として必要があることも了承されました。

会員の再就職についても説明され、求人、求職のドッキングについての最近の問題点についても討議されました。

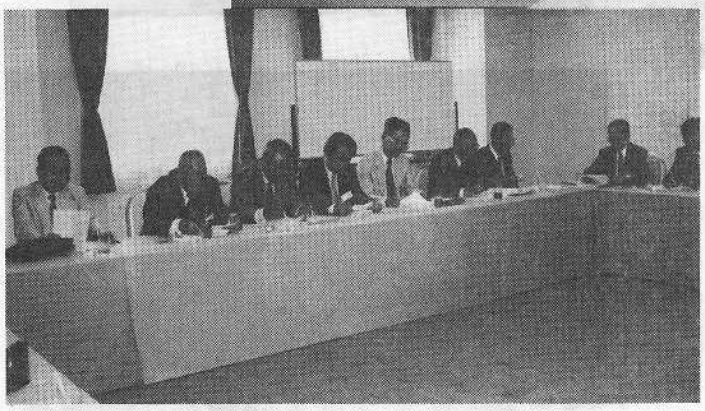
なお会の運営について、今後一層の推進をはかるよう、新役員に対して事務局からの要望も承認されました。

本部総会を今回東京で開催したわけでありますが、他支部の会員にまで寄付の依頼があったことから、できれば今後は本部総会は本部所在地で開催して欲しいという発言があり、その間の事業説明があり、地方での本部総会の開催については充分検討することで了承されました。

また母校のクラブ活動に対する支援の在り方についての質問があり、現状を事務局から説明して了承されました。

理事会の出席者は左記のとおりです。

和田春生会長、西川、佐藤、山崎、末崎、落合副会長、千々波京浜支部長、土屋静岡支部長、(前)村井名古屋支部長、北岡四日市支部長、島田大阪支部長、大塩神戸支部長、上野伊勢志摩支部長、浅野、辻、星野、松山、篠田、加藤(喜)、上村、長谷川、松本(幹)、中村(浅)、野尻、斉藤、中村(武)オブザーバー山本茂(名古屋支部長)



理事会風景

懇親会

総会終了後、昼食を兼ねた懇親会が、マリナーズ・コート四階の大広間「白鳳」において盛大に開催されました。

施設が新しいだけに、かってないすばらしい会場を選定して頂いた京浜支部役員の皆さんに心から感謝の意を表します。

来賓として、中沢次男全船協専務理事及び手塚学校長から祝辞を賜り、一層会が盛り上りました。

会費五、〇〇〇円では、到程不可能な豪華な立食パーティを演出された千々波京浜支部長の苦労は擦して余りあるものがあります。

和田会長、佐藤副会長以下支部役員、幹事の皆様の並々ならぬご尽力により多額の寄付金があり、あのような立派な懇親会が開催できたことを本部役員一同厚く御礼申しあげます。

まさに鳥羽商船同窓会の底力を見せつけられたものと深く感銘いたしました。

申し添えますと、会費の倍以上の経費がかかったとのこと、改めて京浜支部の皆さんにお礼申し上げたいと存じます。

千々波京浜支部長歓迎挨拶

全船協　中沢専務理事挨拶

懇親会風景

総会懇親会　出席者名簿

来賓

手塚　俊一　校長
野明　厚史　事務部長
中沢　次男　全船協専務理事

同窓会員

N科

S3	坂口才五郎	S6	平光	吾一	
S7	裕口	輝治	S9	浦田	楠雄
S11	和田	春生	S15	宮増	一郎
S15	西岡	光雄	S16	佐藤	静雄
S16	山崎	修	S17	西川	慶堂
S17	末崎	弘	S18	岸	望
S18	小林	義夫	S18	中村	浅吉
S18	八木沢哲治		S19	浅野	和昭
S19	長谷川俊治		S19	山本	太郎
S19 12	大久保徳夫		S19 12	杉島	昇

E科

S19 12根本　明　S19 12平野安太郎
S19 12松浦　幹　S21　荒巻　武郎
S21　井上　三二　S21　加藤富士雄
S21　川村喜一郎　S21　島田　昭二
S21　高橋　清吉　S21　土屋　和雄
S21　長谷川好道　S21　林　幸雄
S21　大槻　彰　S22　落合　弘明
S22　加藤　喜作　S22　田村　辰夫
S22　山本　茂　S23　李家　正晃
S23　成沢　昭　S23　深町　久
S23　林　幹夫　S24　青山　周弥
S24　大谷　繁夫　S25　小山　逸男
S26　竹内　宗助　S27　永田　尚司
S28　嶋村　秀夫　S28　今野益次郎
S28　本田　群二　S29　岩田　和雄
S29　塚越　健一　S19　野田　芳樹
S29　森　博　S30　上山　浩
S30　笠原　昌治　S31　荒井　宣靖
S31　松岡　康男　S31　水戸岡公一
S31　森島　昭司　S32　奥　正夫
S32　辻　裕　S32　渡辺　上
S33　片岡　孝行　S33　土屋　昇
S33　杉浦　有光　S34　石崎　清之
S36　軽部欣四郎　S37　鈴木　修
S37　樋口　毅　S37　和田　毅
S37　野尻　進　S38　小久保又五郎
S38　本山　幹夫　S39　中村　武史
S39　小島　広志　S40　吉沢　弘
S41　井上　彰　S41　近藤　政晴
S42　西海　輝夫　S43　横山　良一
S44　大隅　克義　S44　武田　雄三
S48　市村　孝夫　S49　高木　春男
S49　小山　道夫　S54　千代田　悟
S55　福田　憲二　S56　中村　久男
S57　前田以砂生　S59　市川　義行
S61　伊藤　康敏　S63　本田　純二
S63　松田　伸治

T14　中頭　武　S8　倉橋・善正
S9　横尾　義泰　S10　望月　武夫
S16　加藤　徳助　S18　青木佐加男
S18　秋沢土佐男　S18　北岡　万二
S18　小林　勝　S18　土屋　一明
S18　諏訪　致道　S19　上野　和泉
S19　松本　幹　S19　三ツ石昭夫
S19　村井　憲次　S19　山内　末夫
S19 12剣持　光雄　S19 12中田伊佐夫
S19 12上村　賢次　S19 12石田　輝昭
S19 12長谷川　正　S22　藤本　勇
S22　大塩　重夫　S22　宮沢　弘一
S22　島上　健　S23　斉藤　博隆
S24　磯崎　昭　S27　木下　巽
S27　斉藤　隆　S27　千々波天信
S28　増田　信　S30　寺崎　省吾
S30　遠藤　厚　S30　藤原　和彦
S31　岡田　和泰　S31　田中　靖佶
S31　山本　保夫　S32　有井　照夫
S33　川口　渉　S33　田中　誠
S35　内藤昇太郎　S35　北村　克己
S35　菱田　司　S35　元島　次郎
S36　石川　仂　S37　槌谷　雄次
S37　広瀬　典樹　S39　可児　紘之
S41　飯島　寿　S41　山下　文徳
S42　宇恵　悟　S42　溝井　昇
S43　仁藤　学　S44　高橋　秀
S44　松本　透　S48　奥田　宣夫
S50　志賀　重昭　S52　星野　芳昭
S53　松山　清二　S53　割田　章夫
S54　木下　雅史　S55　柳田　和彦
S55　谷　謙二　S55　仁藤　学
S56　宮川　智　S61　田中　伸一
S62　鮫島　靖典　S63　池田　勝
以上　一六五名

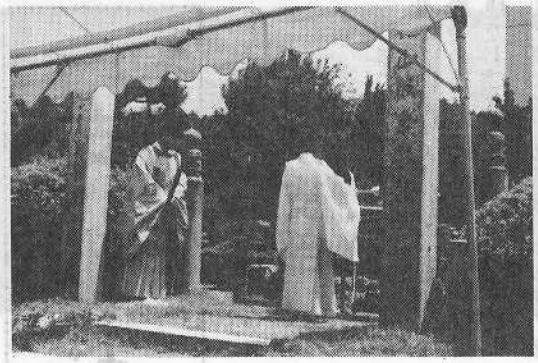
近藤先生慰霊祭

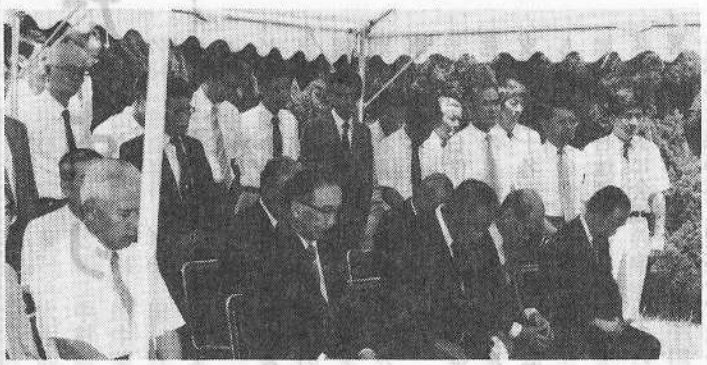
制御情報工学科研究棟の新設に伴う、近藤先生慰霊碑の移転については、昨年以来会報でお知らせしたとおりでありますが、去る八月六日十一時より、工事前の慰霊祭が挙行されました。

いわゆる魂抜式といわれるもので、鳥羽金刀比羅神宮の宮司により執行され、手塚校長はじめ学校関係者多数が参列して工事の無事を祈りました。

なお同窓会側からは左記の方が参列されました。

堤　好造相談役
西川慶堂副会長
村井憲次副会長





慰　霊　祭

会員の表彰

☆運輸大臣表彰

平成二年度海の記念日に際し、永年勤続者として左記の会員が表彰されました。会員一同心からお祝い申し上げます。

S10N内藤　平七　伊良湖三河湾水先人

☆日本港湾協会表彰

日本港湾協会の平成二年度総会が去る六月七日富山市で開催され、左記の会員が港湾功労者として表彰されました。会員一同心からお祝い申し上げます。

S17N末崎　弘　四日市曳船㈱代表取締役

北岡万二四日市支部長
山本　茂名古屋支部長
上野和泉伊勢志摩支部長
落合弘明事務局員
斉藤　隆事務局員
中村武史事務局員
世宮利郎事務局員

なお九月十日現在、工事はかなり進み、樹木の移転はすべて終っております。

築山をつくり、一段と高まったことから、以前よりも完成後は立派になるように思われます。

会員の皆様方のイメージを損ねぬよう、旧近藤先生碑を百八十度方向転換したもので、面積は大きくなっております。

手塚校長歓迎会

昨年十二月一日付で第十七代の母校の校長として就任された、前東京商船大学教授―手塚校長の歓迎会について、前々から計画しておりましたが、和田会長ならびに手塚校長とも大変お忙しい方ですのでなかなか良い機会が得られず本部事務局はおしかりを受けていましたが、四月六日遅ればせ乍ら、鳥羽市樋の山にある「扇芳閣」の舞台付広間で開催されました。

手塚校長及び四月一日付で新任の野明事務部長をお迎えし、和田会長が歓迎の辞を述べられました。

噴水付の舞台では、アトラクションとして日本舞踏や〇〇の有名音頭等が展開され、春の一夜を参加者一同大いに楽しみました。

出席者は左記のとおりです。

来賓　手塚俊一校長
　　野明厚夫事務部長

同窓会側
　和田春生会長
　堤　好造相談役
　西川慶堂副会長
　山崎　修副会長
　北岡万二四日市支部長
　村井憲次名古屋支部長
　上野和泉伊勢志摩支部長
　落合弘明事務局員
　斉藤　隆事務局員
　中村武史事務局員
　世宮利郎事務局員

電子機械工学科
卒業生入会

去る三月八日、電子機械工学科の第一期生三十七名が卒業し、全員本会の会員となりました。

好況を反映して、求人数が非常に多く、まさに希望どおりの企業に就職できました。いずれも我国でも一流の企業で占められていまして、新学科の前途は洋々といえます。

卒業式には西川副会長はじめ、本会の役員も多数参加して、新学科の卒業生の前途を祝しました。

卒業に先立って、本会への入会について、本部事務局の落合が、母校関係者の了承を得て「鳥羽商船同窓会」の内容について説明し、入会を依頼したことを報告します。

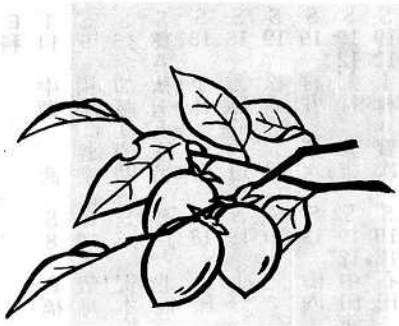
なお卒業祝賀パーティは、従来どおり、母校奨学後援会と共催しました。これからも同様にしたいと考えております。

従って九月と三月の二回卒業式があるわけですので、負担金が倍増しますがよろしく御了承下さい。

卒業年度としては、平成二年とします。

今後電子機械工学科及び制御情報工学科の卒業生が本会員として活動されることになりますが、そのなめには役員の選出等においてもこうした点を充分配慮した方向付けが必要であることが、理事会においても討議されました。

第一期生である卒業生に対し、各支部では担当理事を設けて、今後の相談役とし長となってもらうことになっていますので、卒業生は先輩と思って遠慮なく話合われることを切望して止みません。



支部だより

京浜支部

昨年の鳥羽での同窓会総会から此の方、専ら鳥羽以外で始めての総会の準備に追われていたのが実情です。お陰げで縦横のしっかりした組織作りが出来、クラスの接りがどのようになっているかも良く理解出来たのは何よりの収穫でした。今後共此の組織を有効に活用し度いと考えております。

順を追って日記風にしますと、平成元年十一月二日京浜支部総会で東京で総会を開く事を承認されてからネット組織作成に着手し、三月二十日に本部と仕事の分担、手順の打合せの為本部から斉藤先生にウエットマスター迄来て頂いて理事とクラス代表者十六名と打合せ、出席者のなかで若い人の懇親会に出席する為に出せる会費は五千円迄との事で決定する。一般に八千円から一万円が相場と云われているので、足を出すのを想定して決して無理のない好意のみの寄付をお願いする事にする。

四月二十日ウエットマスターでクラス代表者会議を開き、ネット・ワークの強化と候補会場の設定し、候補会場と見積り交渉する事とする。今回は飽く迄総会での懇親会と云う事で質素にする事とし、ホステス等余分な費用はかけない事にする。

五月八日学校との友好を促進の意で新任の手塚校長先生を囲んで、支部有志十名が今佐で今後共協調して行く為の快い一夕を過す。

六月五日辻理事と共にマリナーズ・コートに会場の申し込みと大署の打合せをする。会費五千円のレベルに保つ事と理事会、総会の室料のサービスをお願いする。

七月二日ウエットマスターで京浜支部役員改任の為の理事会を理事九名出席の上決定し本部へＦＡＸする。後本部と話し合いの後一部変更。

七月十日本部よりの理事会、総会、懇親会の具体的な時間、人数の連絡に基いて、マリナーズ・コートで机の配置、演壇、マイク、黒板、前夜宿泊者人数、酒類を含め料理の準備する量の打合せと価格を設定する。

七月二十二日。前夜、会場をチエックしてあったがもう一度チエックする。よく晴れ上った暑い夏の日差しの下、集って頂いた人数は来賓を含め百六十五名。各会場とも白を基調とした新しい部屋、新しい調度、ゆったりとしたスペース、盛大で和かな雰囲気、本当に良かったとの実感を出席された方々に持って頂けた事。此れも出席出来なかった方々も含めた皆々様のお陰げと存じております。（内容につきましては本部からご報告がありますから省略させて頂きます）出費は一人当り七千円でしたがご好意のご寄付のお陰げで充分な余裕をもって過せました。余りました資金は京浜支部として有効に使わせて頂きます。有難うご座います。

（千々波支部長）

名古屋支部

朝早くから短い命の蟬しぐれに目を覚します。

会員の皆様方連日の猛暑に如何お過しですか。今年は異常気象で毎日の生活が大変でございますが此の便りがお手許に届く頃には朝夕は涼しくなっていると思います。

八九年二号にお知らせした其後の支部便りを御報告致します。名古屋支部（名鳥会）では、九〇年一月十八日新年会を兼ねた役員会を開催し議題として役員改選と名鳥会名簿の再編とヤングの会の実施等に付き打合せ致しました。当日の出席者は十四名でした。

山本新会長挨拶

総会風景

一月の役員会で決定したヤングの会も種々都合がありまして、管理組合に勤務しているE92加塚伸吾、右が幹事となり二月二十四日に岐阜市柳瀬のバーマンハッタンで出席者十八名が参加して行われました。

今回は新らしい企画で岐阜と言う事でしたが出席が悪く本年はもっと皆様方多数出席して頂ける様今からその準備をしています。

三月になりますと八日に電子機械工学科の卒業式に出席致しました。

三月十八日に役員会を開催し一月に名簿再編を打合せましたが当日正式に名簿の編集に取組むことに決定し早速準備に入りました。又当日名鳥会設員として大変に御世話になったNYKから伊勢海防の方に出向されていたN78松浦船長が復船其の交替にN79中尾幸次船長がNYKから出向され即日名鳥会役員をお願い致しました。

四月六日には手塚新校長着任祝賀パーティーが鳥羽市内扇芳閣にて開催され出席致しました。

五月十九日平成二年度名鳥会を郵便貯金会館にて行いました。本部よりは落合弘明副会長の御出席があり学校の近況と同窓会についてお話がありました。尚当日学校長の御出席予定もありましたが急に学会の方に御出席となり我々一同御待ち申し上げていたが実に残念でした。然し乍ら四日市支部長の北岡様と上屋静岡支部長が御多の頃御出席下され本当に有難うございました。総会では村井支部長より会務の報告があり引続き支部活動尽力者左記三名の方に記念品贈呈をしました。

N61　山本太郎　N64加藤喜作
E70　中村研一

次に本年度は役員改選の時であり出席者全員の了解の元新役員を選出後日本部へも御報告致しました。

名誉顧問　山崎　修（N58）
相談役　山本太郎（N61）
顧　問　村井憲次（E61）
会　長　山本　茂（N64）
会長代理　加藤喜作（N64）
会長代理　中村研一（E70）
会長代理　春口正一（E72）

校歌合唱

副会長　大沢則義（N74）
副会長　小林正司（N85）
副会長　菅沼延之（N88）
副会長　加塚伸吾（E92）

又本年度の総会には特に本人の了解を得て実習中の北斗丸が神戸入港中就職打合せで来校していた愛知県出身で井沢と言う女子学生が参加してくれた事です。彼女は地元太平洋フェリーに就職を希望（現在は採用内定）をしているしたので名古屋支部としても出来るだけの努力を致しました。

先に申し上げました名簿も編集委員N58山崎修N61山本太郎E61村井憲次E92加塚伸吾の各氏が余暇を利用して斬く完成し希望者にはすでに送付済みです。

この名簿作成に当っては、伊良湖三河湾水先人会の同窓生及び名簿裏面広告掲載の皆様方の絶大なる御支援の賜と厚く御礼申し上げます。

最後に名鳥会総会出席者を卒業年順に従って御報告致します。

本部副会長　落合弘明
四日市支部長　北岡万二
静岡支部長　土屋和男

N58　山崎　修　N61　裏山惣一
N61　山本太郎　E61　村井憲次
N62　中神清人　E60　垣内　進
E62　上野久滋　N63　清水芳美
N64　加藤喜作　N64　田村辰夫
N64　山本　茂　N64　田中英明
N69　森部　保　E70　中村研一
E70　小林　巽　N74　大沢則義
E74　岡　久志　N76　長岡秀文
N76　岩佐四郎　E77　二村直久
N78　森　良雄　N79　中尾幸次
E84　竹川俊幸　N85　小林正司
E85　近藤正俊　N87　河添四郎
N88　菅沼延之　N88　宗接万太郎
E85　鈴木秀治　N91　小笠原典城
N92　光崎泰夫　E92　加塚伸吾
N93　坂口浩一　N93　河合純一
N94　西浜卓也　N95　山田哲也
E95　森村宏志　E91　浜畑茂紀
E98　前田達也
航海学科実習生　井澤伸枝

（名古屋支部　村井憲次記）以上
（期は明治以来の数字です）

名古屋支部長（名鳥会会長）退任の挨拶

村井憲次

昭和六十三年一月十八日金馬簾にて新年会を兼ねて役員会を開催致しました所、前支部長の山崎さんが三重県の方に帰らねばならなくなったから支部長を退任したいと申され其の席で同期でパイロットの裏山様、山本太様から是非受けてくれと言われたがあくまでも固辞しましたが大勢として受けでるを得ず一応総会までは会長代行として会を運営して参りました。そして五月の総会で正式に支部長に選出され、本年五月十九日まで二年有余本部並に四五〇名の会員の方々の協力に依り大任を完うする事が出来有難く感謝申し上げます。

在任中の事業としては六十三年平成元年、平成二年度の本部理事会と総会に出席致しました。

六十一年、六十二年、六十三年、平成元年、平成二年の五回の卒業式に列席し感激致しました。

期間中日本丸が三回、旧海王丸、新海王丸が入港又銀河丸も入港それぞれ表敬訪問致しました。

昨年から本年にかけ客船ブームでふじ丸、クリスタルハーモニー、咸臨丸と入港し各船共見学する事が出来ました。咸臨丸には同窓でN78野崎船長が乗船中で昨年の十月から受取船長として居られた航海中の苦労話等聞かせてもらいました。

次に支部総会は六十三年二十八名、平成元年九月三十八名、平成二年五月四十二名。

ヤングの会は平成二年二月十八名の会員が参加となりました。

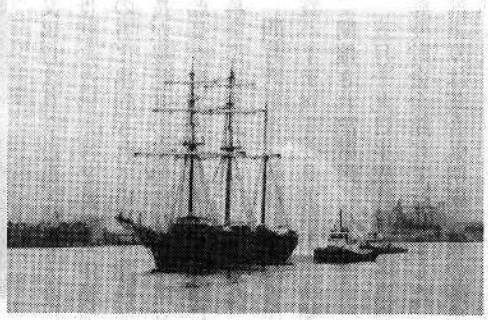
此の期間中静岡支部の分離独立があり一二九名の方が静岡支部へ又矢島前校長の学校葬に出席しました。

第十七代手塚新校長の披露パーティーにも出席させて頂きました。

思いおこせばどれもこれも本当に会員の皆様方の協力に依り総て無事終った事を本当に有難く感謝致します。平成二年五月十九日支部総会後N64山本茂氏に交替いたしました。私同様以上に山本茂氏を盛りたてて頂きます様お願い致します。

引続き本部副会長として残る事になりますが、どうかこれからも一層の御指導と御鞭撻をお願いし退任のご挨拶といたします。

皆様方の御健勝と同窓会の益々の御発展を祈念致します。



成臨丸名古屋入港

四日市支部

当支部では平成二年七月二十八日、四日市プラザホテルにおきまして、三十三名の会員の出席のもと第二十八回支部定例総会を開催しました。

北岡支部長の開会挨拶の後、炎暑にもかかわらず御出席を賜りました手塚校長先生から本校の近況について、また、落合村岡両副会長から本部、名古屋支部（名鳥会）の近況についてそれぞれお話をいただきました。

引き続き、支部会計報告並びに支部役員改選が行われ、その後懇親会に入りました。

懇親会では、昭和十二年から六十一年卒まで約五十年にわたる老若会員相互が親交を深め、楽しいひとときをすごしました。

〈出席者（敬称略）〉

来賓

鳥羽商船高等専門学校　手塚俊一

鳥羽商船同窓会副会長　落合弘明

鳥羽商船同窓会副会長（名鳥会）村井憲次

会員（三十三名）

N科（十四名）

S14 伊藤茂雄　S14 熊野伝誠
S14 川北正夫　S17 末崎弘
S19 12富岡久　S21 中野清文
S22 沖田彬　S33 片山勝則
S37 石垣三郎　S40 戸塚一男
S43 角谷一成　S48 鈴木秀司
S55 室博也　S60 味岡利彰

E科（十九名）

S12 広岡隆一　S13 安田太津造
S16 今高光雄　S16 山本勇
S17 吉田秀男　S17 竹岡四郎
S18 高梨素直　S18 北岡万二
S19 12高野富美男　S19 12高梨剛
S19 12山下健作　S19 12上村賢治
S34 柴山和宏　S37 山田岑生
S39 伊達幸博　S43 鈴木敏行
S54 中島達也　S54 北岡克也
S61 西井育夫

追記

当支部総会にはこの五年間、三十～三十五名の会員の出席をいただいております。

事務局では支部総会開催にあたり、二〇〇名を超える会員の方々に御案内状を発送させていただいております。日時、場所等の設定につき至らぬ点が多々あることとは存じますが、会員相互御誘いのうえ今後一層の御出席を賜りますよう、当支部をお借りして会員の皆様に御願い申し上げます。

当支部の益々の発展を祈念します。（室　博也　N55卒記）

大阪支部

一、平成二年四月二十日、大阪市中央区「鳥よし」で、大阪支部幹事会を開催致しました席上、島田支部長（21N）より、前年度本部総会の報告が有り、大阪支部総会開催日決定や、本年度の活動について話し合われました。

二、平成元年十二月、大阪港地区に勤務する若年同窓生、岡室（52N）他九名が大阪市港区「竹家」にて親睦会を開催し、思い出話などに花を咲かせました。

三、国際航路会議が大阪で開かれ、それに伴って「日本丸」「海王丸」が来阪し、五月二十三日田中（52N）、野口（55E）両名が大阪支部を代表して、日本丸に母校実習生（中村朋紀君他八名）にビールの差し入れをしました。思えば十数年前の自分を思い出し、若い彼等の前途に祝福あれと思います。

四、七月二十二日本部総会に島田支部長、野尻氏（37N）が出席致しました。

五、八月四日大阪市中央区「鳥よし」で、大阪支部総会（錦浦会）を開催致しました。

島田支部長あいさつの後、本部総会の報告を野尻氏がされ、母校よりご出席頂いた落合先生に母校の近況をお話して頂きました。近藤翁記念碑の移転や、新学科の話や電子工学科の卒業生の話など、一同驚きや懐かしさをこめて聞きいりました。そして全員の

一同勢揃い

記念撮影の後、出席者中最若年の河南君（61N）に乾杯の音頭をとって頂き、食事懇談となりました。なごやかなうちに時間もたち、小原先輩（18N）の音頭で一同万歳三唱し、納会となりました。

当日は、八月残暑の厳しい土曜日の十五時からの開催としましたが、遠方からも多数の同窓生が出席して頂き誠にありがとうございました。

尚、今回の総会には、五三〇通の往復ハガキを発送し二四五通の返信で内出席が四十二名でありました。大阪支部と致しましては、平成二年度も支部活性化のため、最大限の努力を続けたいと思っております。以下出席者を列記致しまして本項を終わりたいと思います。

事務局　52N　田中潔記

錦浦会総会出席者名簿

18N　中西　勤　18N　小原　博
19N　長谷川俊治　19N　鷲見照夫
19N　大久保徳夫　19N　戸田尚文
19N　田中亀佐男　19E　志尾亘洋
19E　藤森初風　21N　島田昭三
21N　古妻秀夫　21N　井上三二
22N　片山芳男　22N　落合弘明
22E　石原久治　23N　浜　繁
23N　坂本　實　24N　大谷榮三
24E　佐藤定男　27E　金澤恒男
28N　高嶋英二　29E　岡田紀代蔵
31N　橋本博行　32N　大江　勲
34E　奥野　明　35E　北村克己
37N　野尻　進　44E　藤原　賢
48N　野村錦生　49N　山本哲三
50N　阪下正人　52N　岡室孝美
52N　田中　潔　53N　田村　宏
53E　板東秀樹　54N　奈良信夫
55N　山田晃三　55E　浦川寿樹
55E　野口靖司　56N　阪井久和
58N　柴田孝則　61N　河南泰彦

神戸支部

梅雨の晴間が続き三十度を越す真夏日の六月二十一日、お馴染みの金龍閣で支部会員四十名と、本部より落合副会長を迎えて平成二年度支部総会が行われました。

会は梅村伸雄の司会で進められ、支部長大塩重夫、本部副会長落合弘明の挨拶で始まりました。

今年度からは本部総会開催が七月下旬になった為、支部総会も従来に比べて一ケ月遅れとなりました。今後はずっとこのパターンが続くものと思われます。

昨年の支部総会頃から海運・造船を取巻く環境が少しづつ変化してまいりましたが、今年度は更に為替の円安傾向での安定、市況運賃の好転等により雇用の需給関係は様代わりに良くなり、関係者を喜ばせる様になって参りました。

本部からも、現在の学生の就職状況並びに学内組織の現状等、更に校祖近藤真琴翁の記念碑の移転等の問題についてお話しがありました。

続いて報告事項に入りました。

㈠今年は今までの所会員の死亡は〇であり非常に喜ばしい事です。皆様方も尚一層健康にご注意下さい。

㈡行先不明で葉書が返信された方は次の通りです。75期E野原勝77期N田村孝夫・82期E樋口謙次・83期N佐野司朗・85期N櫛田進一・92期N新谷敏幸・92期E小櫃雄司の計八名です。心当りの方はお知らせ下さい。

㈢本日の総会の欠席者よりの伝言紹介。

役員の改選については、役員の若返りと言う会員の要望もあり又、航機のバランスから今回は川村一男（S19／12E）から梅村伸雄（S27N）に交代、他は留任で承認を受けました。川村様には六十周年記念大会を狭んで色々お世話になりました。心から熱く御礼申し上げます。今後も他支部とのバランスを取りながら若返りを続けると言うことで、長谷川好道（S21N）大塩重夫（S22E）についても了解を得ました。

その後、懇親会に入り八十九歳になられた田代金吾先輩の乾杯音頭と共に、中華料理の旨さに舌鼓を打ちながら、自己紹介が始まり夫々現在の生活のお話しを耳にしながら、新旧校歌合唱そして山本哲三（S49N）の締めによる最後の乾杯で皆様方の健康とご活躍を祈りつつ来年の無事再会を願って散会しました。

出席者は次の通り。

T11N下川　満　T11E田代金吾
S2N岡崎武義　S3E北川文男
S5E山口平太郎　S8E高山逸治
S11E坂田　薫　S17N西川真文
S17E森本滝生　S18N中西　勤
S18N坂下安伸　S19N山本醇平
S19 12N神沢重司　S19 12N山中晴幸
S19 12N林　輝　S21N長谷川好道
S21E松本　茂　S21E梶山一郎
S22E岡田承盛　S22E大塩重夫
S23E山本義勝　S23E山本理智夫
S24N吉川敬三　S24E本岡忠孝
S26N高橋忠夫　S26N久保山　茂
S27N梅村伸雄　S27E森脇利康
S28N柴田寿夫　S29N稲葉三子夫
S29E野呂卓司　S31N桑島収平
S33N菅原昌男　S34E久堀善也
S35E福岡民雄　S36E飛田喜八郎
S38E浜口新次　S41E前田文一郎
S49N吉村祐二　S49N山本哲三

（大塩重夫記）

伊勢志摩支部

本部と一体となって活動しておりますので、すでに本部報告で述べられていることもありますが、主な活動について申し上げます。

☆学校長歓迎会

西川副会長、上野支部長を中心として計画し、盛大な新校長歓迎会を開催することができました。

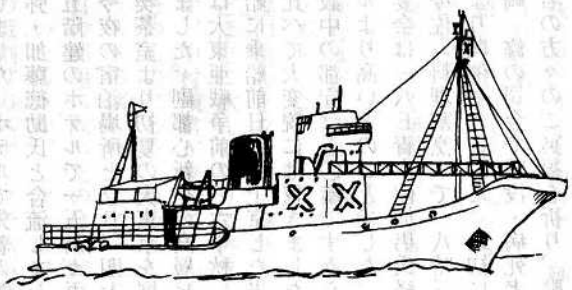
☆近藤先生記念碑

本部事務局と連絡をとりつつ、旧近藤先生記念碑のイメージをこわさないよう母校関係者に申し入れを行いました。すでに樹木の移転は経っておりまして、築山を配置して、旧近藤先生記念碑よりは一段と高くなっております。

百周年記念館との配置もうまく行っておりますので、皆様方から決しておしかりを受けないと自負しております。

☆新水族館誕生

日本一という新水族館が鳥羽に誕生したことは、マスコミを通じてご存知かと思います。新しい形式の水族館を来年の本部総会の際にでもご覧下さればと、観光地鳥羽の宣伝もさせて戴きます。



クラス会

昭和九年クラス会

日光旅行（平成2年度）

横尾義泰

第十一回「鳥羽商船九年会」クラス会は関東地区の、浦田楠雄・中村幸彦・横尾義泰・の三名が幹事で、数年来「日光」での開催希望が強く、昨年のクラス会の席上で、次回は「日光」と決定していた。

一泊二日の恒例の日程で、第一日・四月二十四日夕方、日光駅に集合し、日光国立公園「ひぐらし荘」に落ちついた。

参加者は、総勢十三名（内夫人三名）。懇親会では、今回初参加の白橋長治夫妻とは五十年ぶりの再会もあり、戦中戦後の話に、部屋に引き上げてからも追憶の日々と今は亡き級友が偲ばれて、夜更けまで話が尽きない。

日光陽明門にて

明智平にて

しかし平均年令七十五才ともなると、最後はどうしても健康談義になり、健康で又来年ということになる様だ。

第二日目の四月二十五日は、不順な曇天続きには珍しく晴れて、朝から快晴の五月晴れ、身も心も山の冷気に、全員昔に返ったような張りきりぶりで、観光タクシーに分乗、出発した。

先ず、朱塗りの木橋が、大谷川の清流に映えて美しい「神橋」を見て、第二いろは坂を上がり途中ロープウエイで明智平展望台へ、中禅寺湖・華厳滝・男体山、と三百六十度の全景に息をのみ、雄大な展望に別れを告げて中禅寺湖へ、まだ冬の残雪の見える遠くの山山の影を湖面に写している静寂の中禅寺湖、緑の待たれる湖畔の立木観音付近をしばし逍遙する。

中禅寺湖の湖水が、山合いから大谷川に落ちる華厳滝は、エレベーターで滝壺まで降り、百mの高さから落ちる滝は壮大で、水煙のあがる滝壺の観瀑台は見物客で一杯で小学生団体の間で記念撮影もままならない。

時間がなく先を急ぎ、第一いろは坂の急坂イロハ二十八のヘヤピンカーブを下り、日光観光のハイライトは東照宮に到着、豪華精巧を極めた彫刻の数々に圧倒される陽明門、その他華麗な江戸建築文化の遺産ともいわれる重要文化財を、駆け足でみて歩き、大変「結構、結構」と午後三時日光駅にたどりつき、来年は神戸での再会を約して解散した。

出席者は

浅野和彦・植松春一・大石　信・深川清次・吉田　晃・渡辺松男・吉原千佐子（故吉原保行君夫人）・白橋長治同夫人・浦田楠雄同夫人・中村幸彦・横尾義泰・計十三名でした。　以上

第九回五十八期　昭和十六年卒クラス会

山崎　修

前々より関東地区でクラス会をと提案されていたことから、本年度は六月三、四、五日二泊三日間東京都の副都心の新宿と日光に決定しました。

名古屋駅より乗車する。出席者は七名となり、三日一一時四〇分集合しました。

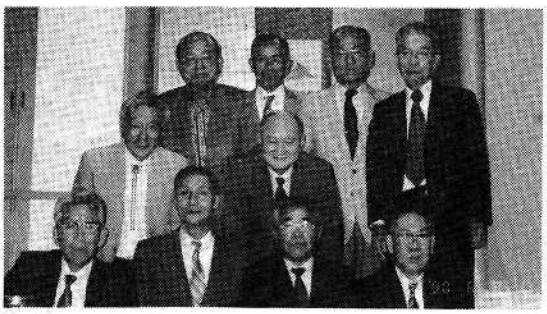
最初に到着の山口・山崎・橋爪吉良・今高・尾崎に続き船木の計七名は、ひかりの指定席で、なつかしかったこと。現在の生活状況等、約一ケ年振りの話に花を咲かせ一四時一〇分東京駅に到着しました。

佐藤兄の迎えを受けて、中央線に乗換、新宿駅に到着。西口の北寄りにある「今佐」の間を通り「京王プラザホテル」に一五時前に到着しました。ホテルで先着の荒川典弥・加藤徳助氏と合流しました。四五階建のホテルで一五階が吾々の今夜の宿泊場所となり、四七階の喫茶室より初夏の大東京を展望しました。副都心新宿の高層ビル群は大東亜戦争前の一六年秋（練習船に乗船前日）に上京した当時に比べて大変貌には驚きました。建設中の都庁は五〇階ですからホテルより高いとのことでした。

宴会は一八E青木佐加男氏経営の今佐（料理割烹）で一八時三〇分より開催されました。最初に、山崎　修の司会で戦没・病死者二六名の方々のご冥福を祈り、黙禱を捧げ次いでクラス会全員とご家族のご健康とご多幸を祈って佐藤兄の音頭で乾杯しました。

青木店主の計いで在京の後輩一八E諏訪致道、秋沢土佐男、土屋一明、S37EでNYKの廣瀬典樹君の計五名が参加してくれました。

吾々のクラスは、諏訪、秋沢、土屋の三君との関係は昭和十五年四月より十六年三月まで同じ釜の飯を食べた仲間であり、丁度五十年の歳月が一度に逆もどりしたこととなり、懐かしく話がはずみました。学校時代には悪童にいじめられた話又外出の楽しかったこと、話はつきるところを知らず、光陰矢の如くという言葉通りでした。カラオケを歌うのも惜んでの談笑がつづき、時のたつのを忘れました。今佐のママさんの発唱で白菊の歌と旧校歌を合唱して散会しま



今佐にて

した。

ホテルでは夜の新宿を散歩組もあり室内での談笑が続きました。

明けて四日（天候　晴）新宿より浅草に東武鉄道の新特急「スペーシア（SPACIA）号」（座席にステレオスピーカー設備あり又日本の民鉄では初めてのソファタイプのシートを設けた個室が六室ある）に乗車し、一〇時三〇分日光駅に到着しました。八木沢哲治氏（今市市出身でホテル・マイクロバス等手配をして頂く）の出迎へを受け、マイクロバスにて、雄壮な男体山を見ながら「いろは坂」を登り、明知平（休憩）線由して華厳の滝（高さ九七米巾七米）の豪快な音を聞き、中禅寺湖々畔で中食をとりました。

復路はいろは坂を降り、一四時東照宮の社務所前で八木沢氏を待ち、一〇名で五重の塔・陽明門・眠り猫・神厩（三区の猿）と奥宮に参拝（精巧優美で荘厳なしかも豪壮にたてられた）杉林の中を通り（小石道路）二荒山神社にも参拝しました。

宮司さんのはからいで特別の案内を賜わりました。

特に感じたことは、皇嘉門の石段の切込等の説明を聞いて初めてわかったことが沢山ありました。改めて日光の豪壮さに感心させられました。

八木沢氏の生家八木沢製材店に立寄り、一七時『きぬがわ一柳閣』に到着しました。三室に分散して談話し、一風呂浴びて一八時三〇分より懇親会が開催されました。前夜に続いて黙禱と乾杯をし、その後は〝きぬがわ料理〟に盃を重ね女中二名とコンパニオン嬢二名を加えての談笑が続きました。

カラオケ好きの加藤・山本が欠席で、吉良・今高・船木・佐藤等の特意曲が続き、歌ったことのない橋爪・荒川・尾崎・山口も持廻りで一曲宛歌う羽目となりました。話に花が咲き、アッと言う間に予定の三時間が経過した後は、二次会としてテレビ観賞とウィスキーを傾け乍ら楽しい一夜をすごしました。

翌朝は朝食後、八時三〇分玄関前に集合して記念写真を撮影し、東武線きぬがわ駅よりスペーシア号で浅草駅に一〇時四〇分到着しました。お互いに健康を祈り、来年再会を約して別れました。橋爪山崎は小雨の中浅草観音さんの土産物屋を通り、数年振りに参詣して、引返しながら名物の中から、なつかしい物を購入しました。

新幹線で名古屋駅に着き、近鉄のホームにて今高・船木・尾崎・山口と合流（別れて五時間も過ぎなのに愚然にも一諸の新幹線で離京する）、計六名が近鉄も津・松阪・鳥羽にと帰途につきました。

今回のクラス会に御世話になった、佐藤・加藤両兄、京浜地区青木氏・諏訪氏、日光の八木沢氏ありがとうございました。誌上をおかりして、心より御礼申し上げます。

次会合は卒業五〇周年につき、有意義なことを計画します。先ず宿泊を伊勢志摩地区として青峯山か、朝熊山（金剛証寺）で、物故者の慰霊法要を挙行することにします。何か良い案があれば御一報下さい。

会員の皆様お互に身体を大切にして、一人でも多くこの会に参加を希望いたします。

（山崎記）

◎欠席者左記の通り（計一一名）

野村　勲・田中広利・山下三樹夫　（都合悪き為）

東　信也・伊藤道夫・秋山末夫　（体調悪き為）

山本　勇（息子さんがいるリッチモンドに行き孫に初顔合せ6/2日帰宅）。室谷迪滋（亡母の一〇〇ケ日法要）。中西三郎（6/4に眼の手術で入院）。田中　明（一〇〇ケ年振りの小学校クラス会と重なる）。藤浪　猛（S六三年より住所不詳です）。

出席者左記の通り

N科（四名）荒川典弥・佐藤静雄・橋爪政蔵・山崎　修

E科（六名）今高光雄・尾崎幸平・加藤徳助・吉良恭一・船木照生・山口正雄（加藤　日光は不参加）

一八会
鬼怒川の集い
関東地区幹事会

今年は昨年関西からタッチして関東になった。「何処にしようか」と四月五日川俣温泉で第一回目の幹事会を開く八木沢・青木・土屋・秋沢・井上・岸・小林の出席で一晩飲み乍らかつは語り合い六月二十六日、二十七日鬼怒川温泉一柳閣に決定した、八木沢君の顔見知りのホテルでもあり事務局を八木沢君に一任した次く日は春の大雪宿の車で鬼怒川駅まで送っていただく。

○どか雪に見舞われ乍らも
語らえば
春の大雪気にも止まらず

せっかく北関東に足を運ぶ関西の方々にもと心づくしの日光近辺の見学もコースに入れた。六年前伊香保温泉を入れて二回目の北関東だった。温泉駅前でおそい食事を取り「六月二十六日ホテルでの」合言葉にそれぞれ別れた。

二十六日幹事は早めに八木沢君と車中で会い駅で東京勢を一電車待つ、モウ一電車待って関西勢を迎え宿に案内、北林苗村君が来ていた「イヤ」「ドウモ」「ドウモ」とおじたりやんのあいさつをすればすでに鳥羽の人になってしまうのがうれしい。海の子だった海の子の習いかも？

入浴語らい六時から宴会に入るコンパニオンの酌が酒の量を量とすれば唄う人も出て言わずと知れず大宴会となる、珍らしく北林君、林君の出席もあり会は飲めば語れば夜の更けゆくを知らず　踊る人歌うひとあり。

○語らえば鳥羽で在りたる
思い出が
泉のごとく湧き出ずる宵

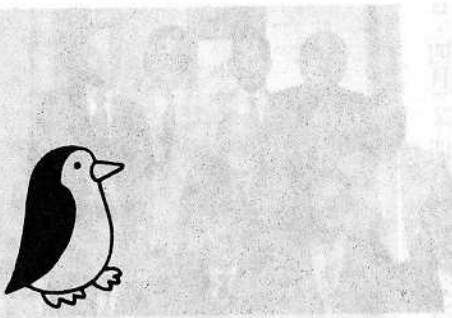
○飲むほどに演歌を唄い
ラストには
誰口遊むとなく唄う寮歌よ

ほどほどに飲んで語りて終りを知らず、中村浅君が京都ですっかり自分のものにした「ヨカチンチン」をラストの演し物としてそれぞれ各自の部屋に向ったのは十時は廻っていたろうか、二次会はロビーでの俄創りのスナックで歌い捲くり、飲み捲り東京の中年ギャルグ

ループと語ったりあそんだりした社交家元海の子もいた。
コンパニオちゃんを部屋まで呼んで次ぐ日になるまでの語らいも又おもしろし
次ぐ日はチャーターしたバスで日光見物をする童のごとすなおな顔して
拍手を
東照宮も良し鳴竜も良し
飲み乍らの見学も終日光駅前でゆばそばと酒少々飲んで「来年中京でと」それぞれ別れを惜しむ。

○出　席　者○印夫同伴
N科○小原・○落合好・落合武・北野・坂下・苗村・中村・城山・岸・井上・○八木沢・小林
E科北岡・島村・中山・林・藤井松尾・渡辺○青木・北林・諏訪・秋沢・土屋　客　茂在氏

—文責小林—



昭和二十二年　クラス会

去る三月一〇日、鳥羽市安楽島にある「ホテルニュー・いろは」において、クラス会を開催しました。山門元校長夫妻も御出席して戴き、多額のお酒代を賜り一同恩師の有難みを痛感しました。

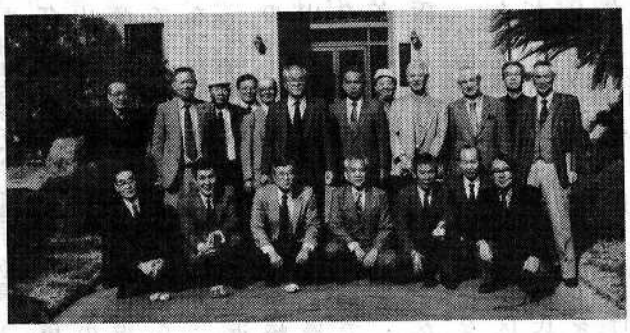
前回のクラス会からしばらく年月が経っていた関係から、顔を見てもお互いに名前が出てこない人もあり、名乗り出て大笑いという幕がしばしば展開されました。

大広間にてのコンパニオンを交えての宴会ならびにカラオケ大会に、四十年前の昔にもどって大いに楽しみかつなつかしみました。自営業の人を除いて、ほとんどが第二の人生を歩みはじめた人ばかりで、これからはクラス会の頻度を高めることで一致しました。

さし当って、来年は名古屋地区在住者が幹事となり、中部地区でクラス会を開催することが決定されました。

翌日はホテルのマイクロバスにて母校に至り、移転が決っている近藤先生碑の前で記念写真をとり、再び昔の童心に帰りました。来年のクラス会には今年以上の参加者があることを期待しています。

なお田村辰夫氏が各自の写真を



母校百周年記念館前

校歌合唱

しました。紙上を借りてお礼を申し上げます。

出席者
N科　雨森　大・落合弘明・加藤喜作・鹿島　博・木学忠雄・田村辰夫・鳥居武雄・永田修一・西井勝三・浜崎民也・森島鶴雄
山本　茂・山尾博一・山本　務
E科　伊藤美智男・石原久治・小野陸雄・小俣郁郎・大塩重夫・小林三郎・鈴木　馨・成瀬正雄西村勝昌・三浦一好・水谷喜之助・若林平人

（落合記）

学校だより

☆電子機械工学科第一期生卒業

去る三月八日、電子機械工業科の第一期生の卒業式が挙行され、三十七名の卒業生が社会人として巣立ちました。好調な景気に支えられて、求人も多く、それぞれの分野で著名な企業に就職して行きました。今後の活躍を祈っています。

☆教官の移動

長年本校教育のため尽力されました左記の教育が三月三十一日定年退官されました。

航海学科　藤咲五郎教授
一般教育　村上隆美教授
一般教育　月田　宏教授
一般教育　矢野　実教授
一般教育　下井　久講師（寮監）

また派遣教官として活躍されました左記の教官が三月三十一日付退官されました。

航海学科　大野　義和助手

鳥羽丸一航砲野　哲治
名古屋港管理組合に転勤

次に四月一日付で左記の教官が就任されました。

一般教育講師　富沢　明
一般教育講師　岸川良蔵
一般教育講師　佐波　学
制御情報工学科助手　伊藤立治
制御情報工学科助手　溝口卓哉
電子機械工学科助手　森　素之
練習船機関士　江尻政治

なお派遣教官として就任されていました世宮利郎教官は、四月一日付で一般教育助手に配置換となり、寮監に就任されて、後輩の寮生指導に当られることになりました。

☆クラブ活動

通学生及び女子学生も増加したことから、従来とは異った形でクラブ活動が実施されていますが、

がありました。

●全国高専体育大会

八月十一・十二日に旭川で開催されました。第二十五回全国高専体育大会において、左記の学生が入賞の栄誉に輝きました。

女子砲丸投げ　優勝
山本けい子（I2）

卓球個人（ダブルス）三位
西尾　貢（M5）
小掠　昌宏（M2）

なお八月はじめ佐賀で行われました全国高専バドミントン大会に東海北陸地区代表として左記の学生が出場しました。

山下　真希（I2）

また夏の国体ヨットの三重県少年の部の代表として、左記の四名が出場しました。

宇佐美航一（SE2）
稲葉　高弘（I3）
坂本　美香（I3）
秦　久美子（S3N2）

OB会からの御支援有難うございました。

☆カッター巡航

七月二十二～二十四日の三日間、三河湾方面でカッター巡航が実施され、商船学科三年生を中心とした参加者が真夏の海上訓練を受けました。

なおOBより陣中見舞を有難うございました。地元OBの方々に厚く御礼申し上げます。

☆フイリピン船員の研修

七月二十三日から三十日まで、フイリピンの航海士・機関士名二名がジャイカの研修生として本校で研修を受けました。航機の教育が中心となって各担当科目別に研修し、電子機械工学科や制御情報工学科の施設見学等も組込まれ、かなりの成果があがったように思われます。

☆偏入制度の導入

平成三年度四月から、電子機械工学科及び制御情報工学科四年に工業高校卒業生の偏入が認められることになり、先ほど偏入試験が実施されました。

その結果電子機械工学科に二名が合格し、本校の歴史に新しいページが加えられることになりました。この制度は四年生に欠員がある場合のみ実施されるもので、商船学科については、目下のところ偏入制度の導入は考えられておりません。

同窓会費納入者

自　平成元年十二月十四日
至　平成二年九月十日

（N科）

二〇、〇〇〇円
S17末崎弘(終身)　S31荒井　愃靖
S36大久保澄夫　S43海保　幸人
S52戸崎　靖

一八、〇〇〇円
S42西海　輝夫

一五、五〇〇円
S24大谷　繁夫

一五、〇〇〇円
S22加藤　幸夫

一四、〇〇〇円
S37樋口　毅

一二、八〇〇円
S33揚村　央司

一二、〇〇〇円
S48古屋　勤　S44吉岡　茂樹

一〇、五〇〇円
S19榎本　正　S27西　雅弘
S35川村　賢二　S36伊藤　忠彰
S49長瀬　正明

一〇、〇〇〇円
T8中田　正一　S19長谷川俊治
S26武宮　康夫　S33杉浦　有光
S37高橋　卓　S36中村　武史
S41井上　彰　S53山川　博之
S53森内　芳卓　S56中村　久男

九、五〇〇円
S22渡辺　和　S22片山　芳男

九、〇〇〇円
S22片山　芳男

八、〇〇〇円
S33丸本　利造　S41小林　昭男

七、五〇〇円
S33福岡　健彦　S36原　秀男

六、〇〇〇円
S½梶田　文彌　S½湯川　昭治
S22山本　茂　S29塚越　健一
S29岩田　和雄　S30今村　清身
S33片山　勝則　S36野崎　利夫
S42青山　保　S42青木　努
S42志水　巌　S43水野　正治
S44山浦　孝　S51光崎　泰夫
S53加藤　貴司　S54千代田　悟
S54鈴木　晴敏　S57森田　浩敏
S58渡辺　誠

五、〇〇〇円
S56柳井　孝之

四、八〇〇円
S47清原　博

四、〇〇〇円
S18苗村　茂吉　S½浜畑　勇
S21高橋　清吉　S24上松　親男
S25林　啓一　S29野田　芳樹
S30田丸　修　S31金沢　寛治
S32岡田　多勝　S32安藤　正
S34野田　則之　S38加藤　久男
S38野口　操　S40坂崎　清
S41磯貝　光洋　S43伊藤　俊治
S43石田　史郎　S44武田　雄三
S44大隅　克義　S48横井　英樹
S50大石　智洋　S54西浜　卓巳
S55幸松　亨　S57岡松　宏
S60黒田健之助　S62柿沼　誠司
S62宇津木　惣　S62野中　将
S62山浦　康裕

三、五〇〇円
S41成田寛太郎

三、〇〇〇円
S42三原　隆夫

二、〇〇〇円
S8水谷　学　S16佐藤　静雄
S18岸　望　S18石川正次郎
S18中村　浅吉　S½大久保徳夫
S½根本　明　S½戸田　尚文
S21川村喜一郎　S21土屋　和男
S21長谷川好道　S25小山　逸夫
S27柳田　廣巳　S27永田　尚司
S28本田　群二　S29青木　努
S32辻　裕　S37和田　毅
S36軽部欣四郎　S41吉田　和市
S58小島　大　S59市川　義行
S62佐野　博　S63本田　純二
S63松田　伸治　特39杉谷　誠

一、五〇〇円
S52新谷　敏幸

（E科）

三〇、〇〇〇円
S½鈴木健次郎

二四、五〇〇円
S22西村　勝昌

二〇、〇〇〇円
S19宮崎　道英　S43仁藤　学
S56田畑　明

一八、〇〇〇円
S32水間　演
一二、五〇〇円
S38入江　甫
一一、〇〇〇円
S24倉地　幸典
一〇、五〇〇円
S33杉原　茂　S40川口　心也
S47竹内　和彦　S52森脇　伸一
一〇、〇〇〇円
S18小林　勝　S19鈴木　寅
S19水谷　助次　S19/12三ツ石昭夫
S28菊地　正弘　S30寺崎　省吾
S31田中　靖佶　S47浜地　安実
S49渡辺　義和　S52越賀　正人
S53高橋　敏行　S54藤野　栄俊
S55柴原　伊興　S55谷　謙二
S60沼井　秀男
九、五〇〇円
S19/12林　昭清　S59浜中　康幸
九、〇〇〇円
S34須永　良治　S35二村　直久
S39寺沢　秀範　S41大塚　賢三
八、〇〇〇円
S22久貝　浩　S37小林　和義
S49高橋敬四郎　S52木村　安男
七、五〇〇円
S22川島　秀夫　S41前田文一郎
S43三井　健次　S55丸山　哲生
六、八〇〇円
S40伊達　宏
六、〇〇〇円
S9横尾　義康　S19山内　末夫
S21土方　利道　S25永井　郁夫
S35菱田　司　S35内藤昇太郎
S41飯島　寿　S50堀江　茂
S50磯部　亮　S51皆川　藤夫
S52寺崎　義芳　S53安野　豊彦
S57八木　雅彦　S60八木　賢治
S60平野　重治
五、〇〇〇円
S18小林　義夫　S55吉田　昌行
四、五〇〇円
S48中村　繁
四、〇〇〇円
S18土屋　一明　S18北村　良弘
S18諏訪　致道　S21山崎　澄雄
S21大槻　彰　S21島上　健
S23永田　収　S27森脇　利康
S27浜島　重和　S33西村　潔
S33川口　渉　S36友田　修
S38柴原　勉　S39本田　寿一
S40柘植　修二　S41鬼頭　明生
S42丹　伸一郎　S47田中　孝雄
S48堀　忠幸　S49木下　勝
S50志賀　重昭　S50河野　則夫
S52星野　芳昭　S53黒太　信博
S54永井　順　S55柳田　和彦
S55井上　武明　S55山本　敬士
S56高橋　義孝　S56碇子　千浩
S56五島　政明　S61田中　伸一
S61平井　博幸　S62井上　健治
S62細川　泰彦　S62平尾　圭志
S62大木　昭和
三、五〇〇円
S40吉谷　直
三、〇〇〇円
S9/12藤原　義一　S34戸張　武雄
S52井口　淳　S33山口　義之
二、〇〇〇円
S18秋沢士佐男　S19松本　幹
S9/12上村　賢治　S9/12東爪　佐七
S22大塩　重夫　S22宮沢　弘一
S22池下　正男　S23片岡　久雄
S24磯崎　昭　S24本岡　忠孝
S27木下　巽　S30藤原　和彦
S31岡田　和泰　S34上野　紀佳
S35高松　紀之　S36安藤　裕
S43村田　健次　S44松本　透
S48鬼沢　秀和　S52高岡　秀夫
S52浅野　真司　S52石井　秀幸
S53割田　章夫　S55大又　育夫
S57山下　義道　S59中村　巧
S61山本　隆生　S61中村　信也
S62堀内　順也　S62坂井　毅雄
S62鮫島　靖典　S62野呂　信彦
S63池田　勝
入会金
三八、〇〇〇円
（新卒者を含む名特別会員一名）
なお新卒者名については新入会員のところで記載してあります。
総計　一、六六六、四〇〇円
（延二八五名）

助成金
五〇、〇〇〇円
T11N下川　満
本部事務局の助成金として拝受しました。
有難うございました。

伊勢で中堅会員が新企画

航海科S38　牛場　正、小島広志会員がそれぞれ新事業を開始されました。
会員各位の御支援をお願いいたします。

●「アイ総合企画」

代表　牛場　正
〒516　伊勢市神社港55－2
電話FAX　〇五九六－三六－五四八一
業務内容
不動産売買から小型船舶操縦士免許取得まで、皆様のお手伝いをいたします。

●「三重エンゼル・マリン商会」

代表　小島広志
〒516　伊勢市浦口四丁目32－8
電話　〇五九六－二五－二二三〇
FAX　〇五九六－二五－二五四〇
業務内容
高速船の企画から建造まで（レジャー船・旅客船・遊漁船・漁船等）
船体改造及び主機換装の企画から工事まで
舶用機器類販売、据付及び技術指導
回航業務・中古船売買・外国艇輸入業務
輸入艇受検立合業務・輸入艇販売業務
係留船の保守・管理代行業務
船舶代理店・マリン関係総合コンサルタント
マリンレジャー関連業務・マリンリゾート開発関連業務
海洋レジャー全般について、ご利用をお待ちしています。

●新海事事務所開設

航海科S25　新家　昭一会員が海事事務所を開設されました。
是非ご利用下さい。

〒459　名古屋市緑区大高台二丁目二〇六番地
電話（〇五二）六二二－三七一三
(FAX)

●角谷一成法律事務所新設

航海科S42　角谷一成弁護士がこのたび独立されて左記に事務所を開設されました。
同窓会顧問弁護士も御願いしたいと思っています。
会員の皆様の法律相談にぜひご利用下さい。

角谷一成法律事務所
〒514　津市栄町2－18－2
きりん　第7ビル7F
TEL　〇五九二－二四－八一七七

●若手航海士が新らしい「イベント・旅行会社」設立

航海科S49　山本哲三会員が、左記事業を設立しがんばっていますので御支援をお願いいたします。

業務内容
1　国内旅行業
2　各種イベントの企画および主催

株式会社シルバープロデュースクラブ
〒666　兵庫県川西市平野川田七九三番地
TEL
FAX－01　〇七二七－九二－六四六三

死　亡　者　一　覧

下記の会員の死亡連絡がありました。謹しんでお悔み申し上げます。

会員名簿発行案内

前号でお知らせしました会員名簿を下記要領にて発行することになりました。このため全員に予約金納入用の振替用紙を同封しました。

価　　格　　2,800円（送料込）

発行時期　　平成２年12月中旬（発送）

去る７月に開催された本部総会の委任状、出席通知書を基本として名簿作成に当ります。会員の約半数1400通が返送されていません。

住所及び勤務先を変更され、まだ事務局にご連絡されていない方もかなりあろうかと推定されます。至急お知らせ下さいますようお願い申し上げます。お手数とは存じますが、ぜひご連絡下さい。

会員名簿広告募集

新会員名簿発行に際し、会員の皆様で事業等を盛大にやっておられる方も多いかと存じます。会員名簿に広告の掲載をぜひお願いします。広告代金により名簿発行が経費的に大変助ります。

１口 5cm × 8 cmが10,000万円で大きさは自由ですので、ごぞってご協力をお願いします。

なお、ご応募願った方には名簿１冊を謹呈します。

お知らせ

皆様方からご連絡いただいた勤務先変更については、記事の関係から次号（12月中旬発行）に掲載いたします。郵送料との、関係(70円の次は120円となる)から、30ページが限度となりますのでよろしくご了承下さい。